

海辺を好む植物の和名には「ハマ（浜）」を冠するものがいくつもあります。「ハマエンドウ（浜豌豆）」「ハマボッス（浜払子）」「ハマダイコン（浜大根）」などです。中でも一番最初に思い浮かべる植物名が「ハマヒルガオ（浜昼顔）」でしょう。

ハマヒルガオは、海辺の汀線（波打ち際）から少し離れた砂地を好みます。アサガオと同じ「ヒルガオ科」の多年草なのですが、アサガオが「蔓性（つるせい）」なのに対し、ハマヒルガオは「匍匐性（ほふくせい）」という生態が特徴です。つまり、茎が砂の上や、浅い砂の中を這うように伸びるのです。

ハマヒルガオはその名こそ有名ですが、意外と見かける機会は少ないと思います。私も先日犬吠埼の崖下の海



岸で、久しぶりにハマヒルガオの群落を見ることができました。「コマツヨイグサ（小待宵草）／アカバナ科」という帰化植物の侵襲によって、近年は減少傾向にあることも、見かける機会が少なくなった原因かも知れません。

2025年5月下旬
千葉県銚子市
犬吠埼